

平成 27 年度 第 1 回会議 釧路湿原エゾシカ対策検討会議
議事概要

1. 平成 27 年度調査結果等の報告について

・資料 1-1 平成 25・26 年度達古武地域エゾシカ試験捕獲 実施結果概要

| | |
|-----|---|
| 座長 | くくりわなについては、頭数は少ないが個体数調整で重要なメスが捕れているようだ。希少種へ配慮と書かれているが、これはどういうことか。 |
| 事務局 | 平成 25 年度の事業で、くくりわな設置個所近辺でタンチョウの足跡が見られたので撤去したことを指している。 |
| 委員 | 捕獲したシカについて、「子」と書かれているが性別は記録していないか。個体数調整を行う上では性別が重要な要素なので、記録するべき。 |

・資料 1-2 平成 27 年度エゾシカ採食状況調査

| | |
|-----|---|
| 委員 | キラコタン岬の調査地の詳細はどこあたりか。実際に行ってみると、あのあたりは相当シカに利用されているように思われるが。 |
| 事務局 | アキアジ沼よりも先端で、冬季は湿原と林内を往復するシカ道で行い、無雪期は固定の調査地を用いている。 |
| 委員 | 達古武ぐらいのスケールでは、個体数を出すというのは難しいのか。 |
| 座長 | 狭い範囲で頭数を確定するというのはなかなか難しい。繰り返しサンプリングを取るなどせねばならない。いまは、推進費の方で航空機センサスなどを行っていて、釧路湿原内のシカを数えるなどしている。 |
| 委員 | 冬季の食痕を夏に追跡するのがなかなか難しい。冬季にマーキングしておいて、翌年にどのような影響が出るのかということ进行调查するというのはいかがか。 |
| 座長 | 平成 25 年は 8 月や 9 月に調査がされているが、平成 26 年、27 年は 10 月の調査になっている。推進費の方との整合性も取りたいので、8 月のデータを取るようお願いしたい。 |

・資料 1-3 平成 27 年度達古武地域自然再生事業における稚樹の生育状況調査について

| | |
|-----|---|
| 委員 | 幼木を 150 cm で区切っているが、これには大きな意味があるのか。 |
| 事務局 | 一般的に、胸高直径が 130cm で、その高さで直径 1 cm 以上というのが幼木としている。ここでは便宜的に 150 cm で区切っている。 |
| 委員 | 達古武地域の食痕が 2014 年よりも 2015 年にかけて増加したということ報告されているが、モバイルカリングを行っている浜中町でも同じ現象が見られた。周辺から進入するシカが多いかもしれないので、可能であれば今後、エリアを拡大して招請調査した方がいいかもしれない。 |

| | |
|----|---|
| 座長 | これまでの調査で、冬季にシカが湿原内でヤチヤナギを食べていることなどがクリアになってきてきた。雪が多くて湿原内が使えない場合は、周辺の森林を利用していることも分かってきた。達古武地域の自然再生事業地では、10年前と比べてアオダモの稚樹が著しく減少しているようだ。他の地域でもシカの背が届く 250 cm 程度までの範囲の木や枝に影響が出ることが分かっているが、同様のことが起きているようだ。 |
| 委員 | 夏の食痕が多く見られたとあったが、これは一般的なことなのか。 |
| 座長 | シカ密度の高いところでは、春や秋に枝等を食えることがよく見られる。特に、アオダモは非常にシカに好まれている樹種。 |

・資料 1-4 平成 27 年度エゾシカテレメトリー調査速報

| | |
|----|--|
| 委員 | 1 つ 1 つの調査の全体像が少し見えづらい。説明をする際に、目的や理由、将来的な解析方法などについても説明をしてほしい。 |
| 座長 | 今回は、全体のデザインが分かるような資料を準備するように。 |
| 委員 | 他でも GPS 首輪をつけた調査を推進費等で実施しているが、ハンターさんにはあまり撃たないでほしいという周知と共に、撃った場合も回収に協力していただくように情報共有をしていただきたい。 |
| 委員 | 首輪をつけたシカをあちこちで見たり、情報が寄せられたりするが、観光客や周辺の者にも周知するようなことは考えられないか。 |
| 委員 | データや取り組み内容を地域に提供していくのはいいと思う。社会づくりや基盤づくりは重要なので、価値が高い。やるべきだと思う。 |
| 座長 | エコミュージアムを含めて、酪農学園大学の協力も得られるということなので、追跡結果なども一部展示しながら普及に努めるというのはいかがでしょうか。 |

2. 平成 27 年度事業計画（案）について

・資料 2-1 平成 27 年度環境省事業計画（案）

| | |
|----|---|
| 委員 | 小型囲いわなのメリットのひとつは移動の容易さだと思うので、捕獲の状況が芳しくなければ、わなを移動させることも検討すればどうか。大型囲いわなの捕獲については、現在の苗畑がある箇所が望ましいと思う。 |
| 委員 | 12 頭の GPS データだけでは、この地域のシカの全容を把握できていないとは断言しにくい。もう少し GPS データを解析して、湿原の利用率等を明らかにしておくことで、この地域で捕獲することの意義をクリアにできるのではないかと考える。 |
| 委員 | 達古武で越冬するシカが夏に違う地域に行くことは明らか。しかも、その夏期の生息地は非常に捕獲が難しい射程距離 300m 以上もある農地である。環境省としては国立公園の自然再生事業とは外れるかもしれないが、こうし |

| | |
|----|---|
| | たシカを達古武のような地域で冬季に捕獲する重要性を示していくことは重要だ。 |
| 座長 | 達古武の環境省所管地の先はアクセスが困難だが、こうした箇所でも小型囲いわなが利用できるか試してほしい。 |

・資料 2-2 平成 27 年度環境総合研究推進費事業計画（案）

| | |
|-----|--|
| 委員 | エゾシカの季節移動は、いつ起きるのか。 |
| 委員 | 越冬地において捕獲しているので、農地への移動は 4 月初旬頃が多い。 |
| 事務局 | 「不規則に動く」という個体は、なんとなく方向性として湿原のどこかに目的があって動くようにも見えるが、どのように考えるか。 |
| 発表者 | 季節的には「不規則」だが、場所としては恐らく雪が解けているだろう箇所などを目的に移動しているようにも見える。 |
| 委員 | ヘリセンサスで密度が高かった場所は、久著路川等のハンノキ林ではないのか。 |
| 座長 | そうではない。塘路湖あたりは南向き斜面で雪が解けていることが多い。そうしたところにシカが集まっているものと推測する。 |
| 委員 | 道道 1060 号線に関しては、通行止めをしたうえで銃猟を行うという考え方がある。法律的にも許可を得れば実施可能と考える。しかし、右岸堤防のような場所では、夜間以外は遠くに行ってしまうので、夜間に捕獲することを考えなければならない。 |
| 座長 | こうした場所で捕獲を実施していくには、周辺市町村も含めてきっちりと合意形成を作っていく必要がある。重要な課題ではあるので、環境省としても検討していくということではいかがか。 |

3. 釧路湿原生態系維持回復事業について

・資料 3-1 釧路湿原生態系維持回復事業について

| | |
|------|--|
| 座長 | この生態系維持回復事業は、現在の検討会があって科学的な助言を得る仕組みはあるが、関係機関との連携が見えない。 |
| 事務局 | この計画を策定することで、例えばシカ柵とか、サンプルを採取という際の手続きが簡素化できるというテクニカルな側面も大きい。実施計画という意味では、専門家の助言を踏まえながら作っていく必要があると考えている。 |
| 座長 | 振興局の方では、広域連携ということについていかがお考えか。 |
| 関係機関 | 現状ではエゾシカ対策連絡協議会を振興局単位で市町村や省庁を含めて毎年実施している。道庁のエゾシカ対策課も重要な案件であることは認識しているところなので、まさにこれから検討していくことになると思う。 |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>広域での連携という下準備はできているように思う。International Wildlife Management Congress (IWMC) が終わった後のワークショップでも、市町村担当者は誘ったら釧路まで来てくださった。問題は誰がどのように音頭を取っていくかということだろう。</p> <p>いずれにしても、この計画が承認されれば早めに打ち合わせをして、どのようなことをやっていくかということ相談した方がいい。さもないと、気が付くと平成 29 年になってしまうだろう。</p> |
| 委員 | <p>環境省だけでなく色々な行政機関が協力してという話をされていたと思う。環境省だけでやるならば今のままだも問題はないが、他の行政機関と一緒に実施するならば何らかのプラットフォームが必要だと思う。それを準備せずに進めて行ってよいものか。</p> |
| 事務局 | <p>今のところ、まずは国立公園内をどうするかということが先決なので、まずは環境省主体で行っていく予定。</p> |
| 委員 | <p>分かりました。</p> |

4. その他

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>来年度の検討会議の開催は、植生調査（8月）が終わった後に1回実施。それが終わった後で、推進費との調整を行うということではいかがか。</p> |
| 座長 | <p>そのあたりは、また委員とすり合わせを行うということをお願いしたい。</p> |
| 委員 | <p>生態系維持回復事業の実施計画はいつ作るのか。</p> |
| 事務局 | <p>再来年あたりを考えている。すべてを来年に固めるのは難しく、実施計画を本格的に作成するには、こまめに会議をせねばならないと考えている。</p> |
| 委員 | <p>了解しました。</p> |